

養育者は子どものどのような応答を絵本の物語理解とするのか？

— 間主観的理解からの検討 —

(中間報告)

筑波大学大学院人間総合科学研究科 太田 礼穂

What response of the children is the story comprehension of the picture book ?

— from rearers' intersubjectivity —

Graduate School of Comprehensive Human Science, University of Tsukuba OTA, Ayaho

要 約

本研究では、絵本読み聞かせを通じ、養育者は子どものどのような応答を物語理解と捉えているのかについて、保育者7名のインタビューより検討を行った。その結果、保育者は①On lineでの物語理解（読み聞かせ最中に行われる応答）、②中間的活動（読み聞かせ直後の応答）、③Off lineでの物語理解（読み聞かせ活動以外の他活動の中で確認される物語理解）の3つの時間軸で子どもの物語理解をモニタリングしていることが明らかになった。また保育者は子どもの発達に関する知識や読み聞かせのスキルを利用しながら、子どもなりの理解を受容し、子どもの行動の意味を読み取ろうとしていることが明らかになった。

【キー・ワード】 絵本読み聞かせ、保育者、間主観性、物語理解

Abstract

The study conducted interview research to 7 child-care workers in order to clarify how the rearer understands the young children's responses for reading picture book. That is what kind of response was taken as the story comprehension by the rearer. The result was that they took children's story comprehension in terms of 3 temporal axes: (1)On line comprehension (the responses in reading a story book) (2)Intermediate activity (the responses after reading a story book) (3)Off line comprehension (the activities in the another context). And when the rearer tries to accept the way of children's comprehension and catch their action's meaning, they use the knowledge concerning development and the skills of reading picture books.

【Key words】 reading picture book, child-care worker, intersubjectivity, story comprehension

問題と目的

絵本読み聞かせは、乳幼児期から幼児期において幼稚園や保育園などの教育機関や家庭で日常的に行われている活動(佐藤・西山, 2007)であるが、近年 PISA 読解力テストを意識した「考える力」などの向上を目標にした読解力向上プログラムのような政策(文部科学省, 2005)やブックスタートの活性化など絵本の重要性の認識(佐々木, 2006)が高まっている。この絵本の読み聞かせの活動には以下の三つの特徴が存在する。

第一に絵本読み聞かせは習慣的に行われる活動のため、マクロな時間軸(発達の推移)とミクロな時間軸(活動間の時間推移)、2つの時間軸において観察できることである。

前者は子どもの年齢間比較によって明らかになる発達や認知能力の差異(e.g., Sultzby, 1985; 秋田・無籐・藤岡・安見, 1995)などの時間軸であり、後者は、日常的習慣の中で起こる微視的変化の時間軸である。

第二に子どもと大人が協同する場であることである。Ninio & Bruner(1978)は、絵本読み聞かせの際のやり取りを分析し、大人は子どもにただ単純に応答するだけではなく子どもの理解の程度を察知しながら応答している事、また大人は子どもの理解が深度を増すにつれ徐々に援助を減らし、子どもに行為の責任を移譲するというプロセスを明らかにしている。

つまり絵本読み聞かせは、大人と子どもの活動の中で絵本の話をどの程度理解しているのか、またどの程度子どもが応答可能なかを相互的に模索する活動であると考えられる事ができる。

第三に絵本の読み聞かせは子どものオープンエンドな自由な問いを許容する場である(有元, 2008)ということである。オープンエンドな問いとは、絵本の内容に依拠していれば、必ずしもひとつの正解を導く必要がない『非収束的な』問いを指す。またこの質問形態は、テキストベースの内容理解だけではなく、テキスト以外の知識表象に結び付けるような文脈横断的な理解のバリエーションを許容する事を意味するといえる。

このように絵本読み聞かせは、2つの時間軸から、①子どもなりの解釈や発想を援助する大人とのかわり合いが重要な意味を持ち、②その活動の中で、相互に了解される多種多様な「間主観的理解(e.g., Ninio & Bruner, 1978)」が形成される場として捉える事ができる。

しかし従来の幼児期の「読み」に関する研究では、主に認知的下位能力(語彙能力・作動記憶容量など)とテキストベースの理解の関係(e.g., 高橋, 1996; 小坂・山崎, 2000)や一人でどのように読めるようになるのかに関する研究(Sultzby, 1985; 秋田ら, 1995)、もしくは母子間での相互作用のパタンに関する微視的分析(石崎, 1996; 古屋, 1996)に主眼が置かれてきた。これらの知見は、発達の視座に立ったテキストベース理解の様相や相互作用の形態を明らかにする一方で、間主観的な理解の様相については充分に取り扱っていない。

そこで本研究では子どもを支援する役割を担う大人が、発達水準を鑑みながらどのような応答を子どもの「理解」と間主観的にみなしているかを明らかにする事を全体の目的とする。

研究1では間主観的な物語理解を探索的に検討するために、多くの幼児に接する事が多い保育者を対象に半構造化面接を行った。本稿では養育者が認知する子どもの理解の多様性について質的検討を

行い、カテゴリを生成する事を目的とする。

方法

対象者：茨城県内の保育園に勤務する保育士 7 名(男性 1 名, 女性 6 名, 平均年齢: 約 32 歳 (1 名 年齢不明), 平均教員歴: 5.57 年($SD=5.47$), 平均在園年数: 3.29 年($SD=2.57$): 付録の表 1 参照)

実施日: 2009 年 10 月中旬

方法: 半構造化面接(約 60~70 分)

面接項目: 絵本の読み聞かせの場面に関連する質問を計 15 問尋ねた。本稿では, ①絵本読み聞かせ時の様子, ②子どもが物語理解している時, ③理解していない時の様子に関する質問で得られた語りを分析し, 報告する。

道具: IC レコーダー, フィールドノート

分析方法: トランスクリプトの作成をした後, インタビューイーの発話を心理学専攻の大学院生 2 人による KJ 法(川喜田, 1970)による分類を行った。また分析単位は, 話者交代(インタビューアーの相づちなど)があったとしても, インタビューイーが継続的に同じ話題を継続して発話していると判断された場合は, 分析者の協議の後, ひとつの発話単位として扱った。

結果と考察

1. 各質問の下位カテゴリ生成

1-i. 絵本読み聞かせにおける活動の様子

以下の 18 カテゴリ(子どもの変化に対する感性・読み聞かせの方略・子どもなりの理解の受容・理解への疑問・絵本の選択・発達に関する見通し・知っている事に対する反応・共振・ラベリング・指さし・疑問・違いへの感性・集中している/していない時の様子・感想や要約・子ども同士のレスポンス・本への愛着・読み手としての子ども・他活動との連続)が生成された。

1-ii. 保育者からみた子どもの物語理解

以下の 14 カテゴリ(子どもなりの理解の受容・教師の意図・子どもの把握・発達と理解の関係・表情のモニタリング・保育者との応答・子どもの反応・質問の的確さ・確認・ルールの応用・見立て遊び・家庭・くり返しによる理解・理解していない時の反応)が生成された(付録の表 2 参照)。

1-iii. 保育者からみた子どもの物語理解の失敗

以下の 14 カテゴリ(保育者としてのスキル・興味と理解の関係・保育者の構え・子どもに対する期待・発達と理解の要求水準・発達による理解の可視化・無反応・周りへの同調・子どもの理解への感性・正しくない感想・他者の間違い・理解への喜び・読み聞かせ場面以外(Off line)での理解・読み聞かせ場面以外(Off line)での言葉の意味の誤用)が生成された(付録の表 3 参照)。

2. カテゴリ間の関係

産出された下位カテゴリは各質問間で共通したものが存在した。そこで得られた下位カテゴリを整理・統合し、保育者の語る幼児の物語理解の様相と絵本読み聞かせ活動運用に関する保育者のあり方（保育者観・発達観など）を図示した(図1, 図2)。

2-i. 保育者が語る幼児の物語理解

保育者は幼児の物語理解を、①読み聞かせ最中に確認される On line での物語理解、②読み聞かせ直後の応答(中間的活動)、③Off line(読み聞かせ活動以外)で確認される物語理解、の3つの異なった時間軸の中で理解をモニターしている事が明らかになった(図1)。さらに物語理解をしているか否かについても各カテゴリに対立項が存在するが(点線枠のカテゴリ)、On line の理解の対立項については活動への集中、もしくは子どもの興味の有無の影響が存在すると考えられる。

また同一の絵本を何度も読み聞かせするうちに、興味がない絵本の内容に子どもが次第にアクセスできる(くり返しによる理解)事例も報告された。

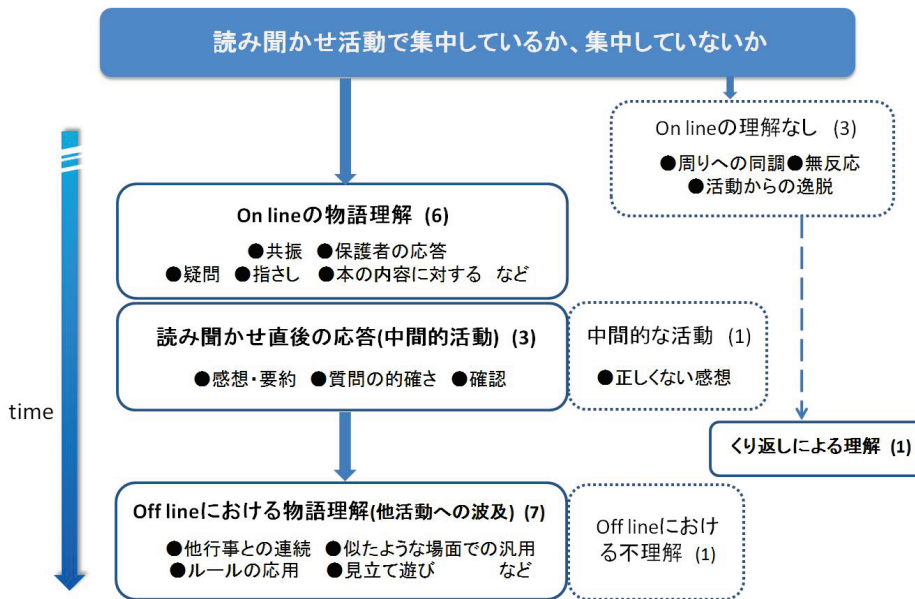


図1 保育者が語る幼児の物語理解

2-ii. 保育者と間主観的物語理解の関係

理解に関する質問内でも、保育者は自分の保育者としての知識や発達観を語る傾向があった。そこで保育者がどのような資源を用いて幼児の物語理解をモニターしているか、また両者の関係性について検討した(図2)。

保育者は、発達に関する知識(発達観と理解カテゴリ)や読み聞かせのスキル(保育者としてのスキル)を利用して子どもに接しているだけでなく、子どもなりの理解の受容や、子どもの行動の意

味を積極的に読み取ろうとする理解への構えが存在した。ここから間主観的物語理解と内的能力としての物語理解とどのような関係にあるのかについて今後の検討課題としたい。また保育者から見た子どもは、自分が理解している(知っている)事に対して敏感である事が明らかになった。

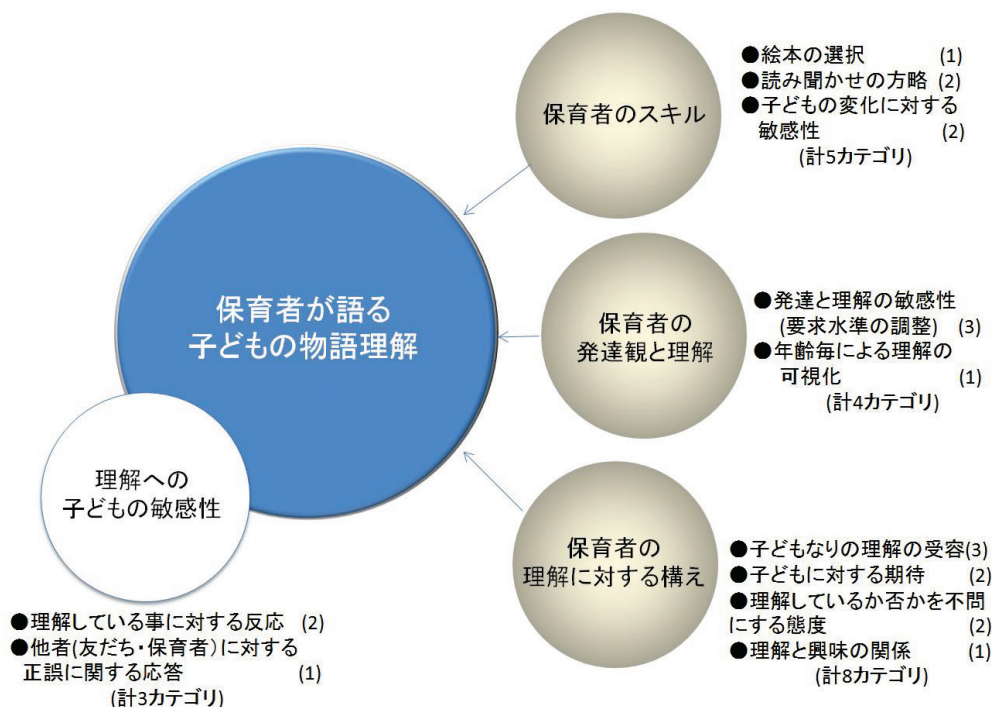


図2 保育者と間主観的物語理解の関係

今後の計画

以上の結果を踏まえながら研究2では、保護者を対象者に物語理解の活動のバリエーションと発達の関係について検討を行う。

引用文献

- 秋田喜代美・無藤隆・藤岡真貴子・安見克夫 (1995). 幼児はいかに本を読むか: かな文字習得と読み方の関連性の縦断的検討 発達心理学研究, **6**, 58-68.
- 有元秀文 (2008). 国際的な読解力を育てるために 教育と医学, **663**, 68-73.
- 古屋喜美代 (1996). 幼児の絵本読み場面における「語り」の発達と登場人物との関係: 2歳から4歳までの縦断的事例研究 発達心理学研究, **7**, 12-19.

- 石崎理恵 (1996). 絵本場面における母親と子どもの対話分析：フォーマットの獲得と個人差 発達心理学研究, **7**, 1-11.
- 川喜田二郎 (1967). 発想法 中央公論社
- 小坂圭子・山崎昇 (2000). 就学前児のテキスト理解に及ぼす作動記憶容量の影響 教育心理学研究, **48**, 343-351.
- 文部科学省 (2005). 読解力向上プログラム(2009.12.17日現在)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05122201/014/005.htm
- Ninio, A., & Bruner, J. S. (1978). The achievement and antecedents of labeling. *Journal of Child Language*, **5**, 1-15.
- 佐々木 (2006). 絵本は赤ちゃんから一母子の読み合いがひらく世界 新曜社
- 佐藤公治・西山希 (2007). 絵本の集団読み聞かせにおける楽しさの共有過程の微視発生的分析 北海道大学大学院教育学研究紀要, **100**, 29-49.
- Sulzby, E (1985). Children's emergent reading of favorite storybook: A developmental study. *Reading Research Quarterly*, **20**, 458-481.
- 高橋 登 (1996). 就学前後の子ども達の読解の能力の獲得過程について：縦断研究による分析 教育心理学研究, **44**, 166-175.

謝 辞

本研究の面接調査にご協力いただきました保育園の先生方に厚く御礼申し上げます。また筑波大学人間総合科学研究科、茂呂雄二教授をはじめ分析に携わっていただいた方々にも御礼申し上げます。

養育者は子どものどのような応答を絵本の物語理解とするのか？

付 録

表 1 調査協力者のプロフィール

	A	B	C	D	E	F	G
経験年数	3	3	14	1	3	2	13
在園年数	3	3	3	1	3	2	9
担当クラス	1～2	2～3	0～1	1～2	0～1	4～6	1～2

表 2 保育者からみた子どもの物語理解（人数）

	カテゴリ名	発話例	A	B	C	D	E	F	G	合計(人数)
保育者の発達 観・教師観	子どもへの理解の 受容	でも大好きなショベルカーが出たって事で分かっている子もいるんですね。ショベルカーがどうしたこうしたじゃなくって。男の子の場合、ショベルカーが出てきたから、「楽しかった」って感想かもしれないんですね。それでも分かった。だと思うんです。私は。	1							1
	教師の意図	やっぱり皆で、集中して見てもらって、「あーあ。」みたいなお遊びっていうか…やってほしいな…っていうのはあるので					1			1
本の選択	子どもの把握	こう、反応をみるというか、食いつきをみるというか	1							1
	発達と理解の関係	3歳でもいけるかなと思うんですけど…そこまでの話の内容を理解するのは、6、5…6歳…。やっぱり自分から気づく、ってのはやっぱり上じゃないかな、とは							1	1
On line にお ける理解	表情	表情を見てなんとなくは、思うんですね				1				1
	保育者との応答	見つめ合って、でも向こう(子ども)もこっちみて、…こうだよって言った時に、「うん」とか言ってくれたりとかってのは間違いなく、通じ合って、分かっていると					1			1
	子どもの反応	読んであげると興奮しちゃって、だめなんですけど…おばけって、そういう、キヤーって怖いものなんだよって言うのをその紙芝居で読んでいてもお化けが出てきたら、キヤーって言い出したりとか		1	1	1				
中間的な活動	質問的確かさ	多分質問に来る事が好きだったんだなってって思いますし、それこそどんびしゃりの子は、わかってるんだろうなって思いますね。	1	1					1	3
	確認	〇〇さん(先生)こういう事でよって、確認する？…こう、確認すると子ども自身が自分で聞いて納得するっていうか		1				1		2
Off line にお ける理解	ルールの応用	歯磨きしないと、虫ばい菌がくるよって絵本も読んだりするので、お昼寝前に歯磨きして「ちゃんとしなくちゃだめなんだよね」って、「虫ばい菌来るからねっ」とって言葉は出たりします。…(教育的な)題材の物を持ってきた時は、時々言う子もいますね。…ルールの物とか。	1					1		2
	見立て遊び	例えばその落ち葉を集めているっていうのを外で本当に落ち葉を見た時に実際にあつめてみたり	1			1	1			3
	家庭	お母さんとかにお話しするみたいです						1		1
継続による 変化	くり返しによる理解	今日2歳の子は、あーあははって笑ったんですね。うん。あ、理解しているのか、それともその、ブイ(絵本の一場面)っていう言葉に反応したのかはちょっと分かりませんが、あーでも分かってくるんだな…って。それがその本を1回目に読んだ時は全く反応がなかったんです。大人だけが反応したんですよ。…でもそれを何回か読んでいって、あ、理解してきているのかって感じたりも				1				1
その他	理解していない時の 反応	なんか、投げかけても、「ほーん」みたいな。	1						1	2

表3 保育者からみた子どもの物語理解の失敗（人数）

	カテゴリ名	発話例	A	B	C	D	E	F	G	合計(人数)
保育者の発達 観・教師観	保育者としてのスキル	この子はどうなんだろう、分かてるのか、いないの かって感じになるので難しいですね。…ぼつとでたこと が、こっちがつなげないと。あ、これ、あの事言ったの かな、とか、あの事してるのかって、こっちが気づかな いと全然分かんないの、					1			1
	興味と理解の関係	理解できなくてそうなのか、それとも興味がないのか なっている区別はちょっと			1				1	2
	保育者の構え	読み聞かせの時、分かってないか。うーん、 そうだな逆 にそっちの方が難しいですね				1				1
	子どもに対する期待	なんでもこう、吸収してほしいじゃないですか。だから分 かってほしいじゃないけど…色々覚えて得てほしいから、 そっちにやっぱ目が言ってしまう				1	1			2
	発達と理解の要求 水準	上の子たちのとは、結構気に、うん、したりとかはあり ますね。下の子たちは、まあ表面的にわかっていれればい いかな、みたいな				1	1	1	1	4
On line におけ る理解していな い状態	発達による理解の 可視化	大きくなると、はっきり、その辺ははっきり、「あ、難しいの かなー」みたいな	1		1					2
	無反応	投げかけても、無反応っていうか。…なんか色々な説明 を自分が加えてしまった時とか		1						1
	周りへの同調	ありますね、空気読むというか						1		1
	子どもの理解への 敏感性	分からないから、やだっていう。…分かっている事にたい してのが、敏感なんじゃないんですか？			1					1
中間的な活動	正しくない感想	子ども同士での感想じゃないけど、言い合っていた時 に、いや違うでしょって、言う						1		1
	他者の間違い	やっぱ5歳児でも正義感が強い子が…分かってないとち くる事が多くて						1		1
Off line におけ る理解していな い状態	Off line における誤 用	逆にそのやっぱ同じように、そのお話しを生活の中 で出した時に、逆の事を言うというか				1		1		2
その他	理解への喜び	分かるとやっぱ嬉しいから、あーだ、こーだの言っ たりとか…			1		1			2
	Off line における理 解	似たような場面にたつと、あ、これお話しに出てきたよ ねって							1	1